

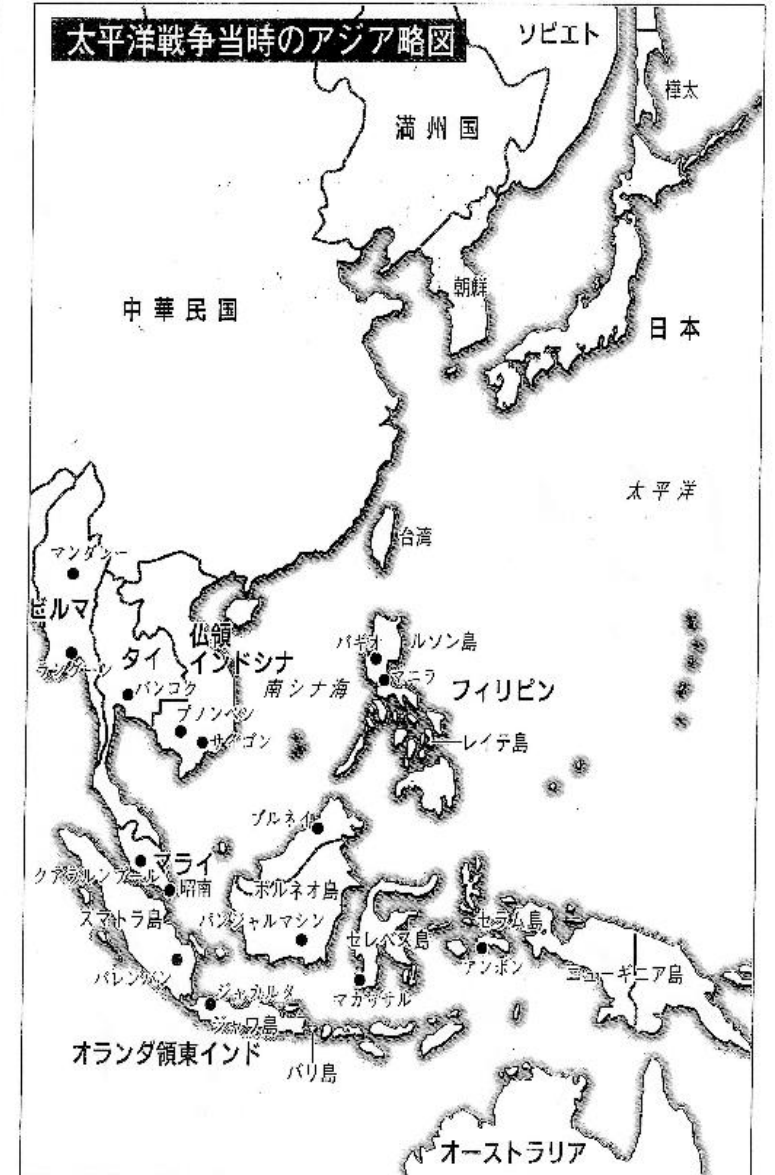
タイの南方特別留学生とバンコク日本語学校 —インタビュー資料から—

東京福祉大学・大学院
名古屋キャンパス
山口 雅代

mayamagu@ed.tokyo-fukushi.ac.jp

はじめに

- 南方特別留学生
大東亜省等関係官庁（語報（1943））
南方諸地域から中等学校卒業以上20歳まで
205名（1943年：116名、1944年：89名）
- タイの南方特別留学生
1944年：12名
来日前：バンコク日本語学校
- 山口・北村（2017）
戦前・戦中の北部タイ日本語学習者インタビュー
- 発表概要
 2. 先行研究
 3. バンコク日本語学校概要
 4. インタビュー資料と先行研究照合
 5. まとめ



藤原・篠原・西出（1996:見開きより）

2. 先行研究

- 南方特別留学生：江上（1997）、倉沢（1997）
江上：南方特別留学生名簿報告
倉沢：インドネシア南方特別留学生
- 国際学友会：河路（2006）（2011）
タイ南方特別留学生12名
- バンコク日本語学校鈴木忍：河路（2009）
- カンボジア人タイ南方特別留学生インタビュー：藤原・篠原・西出（1996）
- インタビュー資料との関連：江上（1997）、河路（2006）（2009）（2011）、藤原・篠原・西出（1996）

2.1 江上 (1997)

- 1943年2月大東亜省
準備教育：国際学友会
- 寮生活：
南洋協会（ジャワ）、ビルマ協会（ビルマ）、フィリピン協会（フィリピン）、
新興亜会（ボルネオ、セルベス）、日泰学院（タイ）
- 1943年第1陣（50名）：マライ8名、スマトラ7名、ジャワ20名、ビルマ15名
シンガポール集合、阿波丸で門司港へ
- 1943年第2陣（27名）：フィリピン
- 1943年第3陣（21名）：セルベス11名、南ボルネオ7名、セラム3名
- 1943年第4陣（12名）：タイ、1944年2月23日バンコク発、昭南市、
陸軍配属船 3月27日日本着
- 1944年（65名+24名）：ビルマ30名、ジャワ20名、マライ4名、スマトラ9名
北ボルネオ2名、フィリピン24名

表1. タイ人南方特別留学生（江上（1997:326-374）より一部割愛）

No	氏名（英文）	氏名（和文）	生年月日	現地学校	志望学科	日本の留学先
1	Tarongvich Dhummanondh	クロンウィット トゥンマーノン	1927.2.7	1942. Debsivindh School	工業	20.4千葉医大附属薬専 21.1.29 帰国
2	Snan Siriphao	サナン シリパオ	1925.2.9	1942.UpharaiaWitagalai Sec.School (Chiangmai)	機械工業	20.4秋田鉱専 21.1.29 帰国
3	Sawai Dhilokpataya	サワイ ディロツペート	1923.5.7	1938.Phadomgsit Pitaya School (Bangkoko,6年)卒	航空科	20.4千葉医大 附属薬専 21.1.29 帰国
4	Sela Pahtuprapass	パントウ プラパー	1921.5.5	1939.AmmuAsilpSchool (6年) 卒 1943.Patumvan Engineering School (3 年) 卒		20.4秋田鉱専 21.1.29 帰国
5	Pramoun Youpanadh	プラムワン ユーパノン	1925.9.2	1942.Watrachartivat School (6年) 卒	機械工業	20.4秋田鉱専 21.1.29 帰国
6	Niphon Phaibeuphoug	ニッポン パイブーンボン	1922.8.16	1941. Assumpton College(6年)卒	農業	20.4函館水産専 21.1.29 帰国
7	Narin Punnahitanon	ナリン プンナヒタノン	1925.10.28	1941.Sudelhovararum (Bangkok) 卒	化学	20.4秋田鉱専 21.1.29 帰国
8	Lert Wongsnith	ラーット ウンサニット	1926.4.1	1943.Changwat School of Phratabong (Phratabong)卒	薬学	20.4東京医学歯学専 21.4慶応大.医
9	Eeak Chuntasotwongse	エーク チャンタローットウン	1921.3.18	1940.Pattaloong School (6年) 卒	歯科医学	20.4東京医学歯学専 21.1.29 帰国
10	Doung Hemarugsa	ドワン ヘーンマラック	1922.1.1	1939.Pattaloong School卒	医学	20.4千葉医大 附属薬専
11	Chalong Boonsuwan	チャローン ブンソワン	1926.11.28	1942.Rachbophit School (6年) 卒 1943.Tumashat大予科1年中退	機械工学	20.4岐阜農専（畜産科） 21.1.29 帰国
12	Charern Suksom	チャラーン ソックソム	1927.5.1	1943.Changuat School of Phratabong卒	医学	20.4_____ 21.1.29 帰国

河路 (2006) (2009) (2011)

- 国際学友会入学時期：

マライ:12名 (1943年7月5日:8名、1944年6月19日:4名)

スマトラ：16名 (1943年7月5日:7名、1944年6月19日:9名)

ジャワ:44名 (1943年7月5日:24名、1944年6月19日:20名)

ビルマ：47名 (1943年7月5日:17名、1944年6月19日:30名)

フィリピン:51名 (1943年7月24日:27名、1944年6月19日:24名)

セレベス:11名 (1943年9月10日)、南ボルネオ:7名 (1943年9月10日)

セラム:3名 (1943年9月10日)

タイ:12名 (1944年4月8日:11名、6月10日:1名)

北ボルネオ:2名 (1944年6月19日)

- クラス：地域別

- 教員：松村明

- バンコク日本語学校鈴木忍：タイ人南方特別留学生の引率

表2. 国際学友会名簿によるタイ人南方特別留学生（河路（2006:498-499）一部割愛）

名簿 番号	呼び名（氏名）	入学 学習期間	始まりのレベル 終わりのレベル	進学先	備考
289	サワイ (Sawai Dhilokpataya)	44年6月10日 42週	バンコク日本語学校で15か月	千葉医大附 属薬専	宿舎なく通学区不可能、日本語学校再入学 46年1月28日帰国
290	プラムワン (Pramoum Youpanadh)	44年4月8日 51週	バンコク第二日本語学校で2か月	千葉医大附 属薬専	終戦により離学,52年7月来日タイ国国連連絡所に 通訳として勤務
291	ナリン (Narin Punnahitanon)	44年4月8日 51週	バンコク日本語学校で15か月	秋田鉱専	終戦により離学,46年1月29日帰国 薬会社
292	タロンウィット (Tarongvich Dhummanondh)	44年4月8日 51週	バンコク日本語学校で2か月	千葉医大附 属薬専	46年1月29日帰国
293	チャロー (Chalong Boonsuwan)	44年4月8日 51週	バンコク第二日本語学校で2か月	岐阜農専畜 産課	終戦後離学 46年1月29日帰国
294	サラ (Sela Pahtuprapass)	44年4月8日 51週	バンコク第二日本語学校で2か月	秋田鉱専	終戦後離学 46年1月29日帰国,自動車会社
295	チャラーン (Charern Suksom)	44年4月8日 51週	バンコク第二日本語学校で2か月	東大農学部 聴講生?	終戦後離学 46年1月29日帰国
296	ラーット (Lert Wongsnith)	44年4月8日 51週	バンコク第二日本語学校で2か月	東京医学歯 学専	終戦後離学,46年慶応大学医学部入学、53年2月ご ろ帰国、後に再来日、カンボジア公使館書記生
297	エーク (Eeak Chuntasotwongse)	44年4月8日 51週	バンコク第二日本語学校で2か月	東京医学歯 学専	終戦後離学 46年1月29日帰国
298	ドワン (Doung Hemarugsa)	44年4月8日 51週	バンコク第二日本語学校で2か月	千葉医大附 属薬専	宿舎なく通学区不可能、日本語学校再入学 46年1月29日帰国,香港銀行
299	ニッポン (Nippon Chaibunphoug)	44年4月8日 51週	バンコク第二日本語学校で2か月	函館高等水 産	終戦後離学,46年1月29日帰国, チェンマイ市自動車会社経営
300	サナン (Snan Siriphao)	44年4月8日 51週	バンコク日本語学校で2か月	秋田鉱専	終戦後離学 46年1月29日帰国、商業

2.3 藤原・篠原・西出（1996:237-245）

- カンボジア人ラート・ウンサニットのインタビュー：
 - 市庁舎筆記試験と面接：数十倍の難関
 - カンボジアから2名
 - 1944年3月27日日本着、1年間日本語教育
 - 1945年4月現東京医科歯科大進学、終戦後慶応大学医学部入学
 - 1950年慶応医科歯科大卒業、奈良県立病院インターン
 - 外交官になり、その後フランスに亡命

2.4 まとめ

- タイ人12名南方特別留学生、国際学友会・日泰学院
（カンボジア人2名：ラート、チャラーン）
- タイの南方特別留学生に焦点を当てた研究
- 山口・北村（2017）

3. バンコク日本語学校

表3. バンコク日本語学校変遷

年月日	バンコク日本語学校変遷	備考
1938.12	日タイ文化研究所バンコク日本語学校設立 松宮・星田・高宮ターチャン・ワナルワン タイ人教師：ミン・ブンスパー	定員158名に318名の応募
1940.10	平等通照が校長として着任	学習者減少
1941.7	国際学友会から鈴木忍着任	学習者増
1942.9	バンコク日本語学校第2校シーピヤーに開校 教職員：国際学友会から国友、鈴木 日本人3名、タイ人8名	学習者450名 (1942年4月～7月初旬)
1943.3	日タイ文化会館開設、館長柳澤健	学習者数362名 (1943年3月)
1943.7	鈴木忍がバンコク日本語学校校長に	
1945.8	敗戦により閉校	

4. インタビュー資料について

(山口・北村 (2017))

表4. インタビュー日程と協力者

No	(2000年) 月日	時間	協力者 (年齢、f: 女m:男)	学習歴
(1)	8月24日 (木)	27.28	シーヌアン (74歳、 f)	ボルネオ・カンパニー
(2)	8月24日 (木)	38.37	サナン (76歳、 m)	南方特別留学生
(3)	8月24日 (木)	58.00	レーヌ (72歳、 f)	軍人から日本語を習う
(4)	8月25日 (金)	1.02.03	シャート (83歳、 m)	軍人から日本語を習い 通訳をする
(5)	8月25日 (金)	01.00		
(6)	8月26日 (土)	25.00	チットラセーム (不明、 m)	戦前私費で留学
(7)	8月26日 (土)	24.50	シーヌアンとサナンとの対面	

4.1 サナンについて

	江上 (1997:327-324)	河路 (2006:498-499)
サナン (チェンマイ 出身)	2. Snan Siriphao サナン シリパオ 1925.2.9生、Sec School (Chiang Mai)卒、 機械工学志望、20.4秋田鉦専、21.129帰 国	300 サナン (Snan Siriphao) 44年4月8日入学 (51週)、バンコク第2 日本語学校で2か月、秋田鉦専進学、46 年1月29日帰国

(北村) 19、2000年8月24日、木曜日、ササンさん、 男性、ドイサケットの人、バンコク、チェンマイで勉強した後、バンコクで勉強して、日本へ行って、日本語を勉強しました。3年ぐらい日本に留学してたんですか。はい、という人です。

(サナン) รู้จักอาจารย์นาตยา ธีปาว

(サナン) ナータヤー先生を知っていますか。

(通訳) ที่สอบภาษาญี่ปุ่น อ้อๆ

(通訳) 日本語を教える先生ですね。

(サナン) エエト、センソウノトキ

(北村) あのう、サナンさんは、生まれたのはいつ。生まれたのは。2000？

(サナン) イマナナジュウロク

(北村) 戦争の時、ああ、これ、1925年、1925年2月9日生まれ、そうすると、今75歳、3年日本に勉強に行きました。

(サナン) コレハ、コレハネ。

(北村) 76歳、これは、いつ、これはいつ作りましたか。

(サナン) アノ、コ、コノヒ。

(北村) あ、入国、昭和19年、あら、昭和19年。で、日本へいつ行きましたか。

(北村) この日、それじゃ、これは、日本に行った時に。

(サナン) フネデ。

(日本人学生) に押されました。

(北村) 同じ日、ビザが。ビザが、19年。で、すぐ、船で。

(北村) へえ、これはすごい。

(サナン) 工業について勉強しに行きました。タイに帰国する前に秋田県に行って6か月間そこに住んでいました。

日本と一緒にいった南方特別留学生

(サナン) 日本政府からバンコクへ日本語を勉強するために送られました。学校(?)はシープラーヤーにありました。

(通訳) チェンマイから人を選んで、送ったのですか。

(サナン) チェンマイから一緒に日本に行ったのは2人です。もう1人はニポン・ターイブントンさんです。彼はもう亡くなりました。南タイからは2人、名前はズアン・ヘマラさん(亡くなった)とエーク・チャンタロンさん、それから、レート・ウォンサニットさんともう1人はチャレン・スクソムさん。バンコクからは6人一緒に日本へ行きました。

表3. インタビュー資料と先行資料（表内番号は江上（1997）、河路（2006）による）

	江上（1997:327-324）	河路（2006:498-499）
ニポン・ター イブントン （チェンマイ 出身）	6. Niphon Phaibeuphoug ニッポン パイブーンボン 1922.8.16生、Assumpotion College(6年) 卒、20.4函 館水産専、21.1.29帰国	299 ニッポン(Niphon Chaibeuphoug) 44年4月8日入学（51週）、バンコク第2日本語学校で2 か月、函館高等水産（志望）、46年1月29日帰国
ドアン・ハマ ラ （南タイ出 身）	10. Doung Hemarugsa ドワン ヘーンマラック 1922.1.1生、Pattaloong School卒、 20.4千葉医大付属薬専	298 ドワン (Doung Hemarugsa) 44年4月8日入学（51週）、バンコク第2日本語学校で2 か月、千葉医大付属薬専、46年1月29日帰国
エーク・チャ ンタロン （南タイ出 身）	9. Eeak Chuntasotwongse エーック チャンタローットウン 1921.3.18生、1940,Pattaloong School（6年）卒、 20.4東京医学歯学専、21.1.29帰国	297 エーック （Eeak Chuntasotwongse） 44年4月8日入学（51週）、バンコク第2日本語学校で2 か月、東京歯科医専、46年1月29日帰国
レート・ウォ ンサニット （カンボジア 出身）	8. Lert Wongsnith ラーット ウンサニット 1926.4.1生まれ、1943.Changwat School of Phratabong（phratabong）卒 20.4東京医学歯学専 21.4慶応大.医	296 ラーット Lert Wongsnith 44年4月8日入学（51週）、バンコク第二日本語学校で 2か月、東京医学歯学専 終戦後離学46年慶応大学医学部入学、53年2月ごろ帰 国、後に再来日、カンボジア公使館書記生
チャレン・ス クソム （カンボジア 出身）	12. Charern Suksom チャラーン スックソム 1927.5.1生、1943,Changuat School of Phratabong卒、 20.4、21.1.29帰国	295 チャラーン (Charern Suksom) 44年4月8日入学（51週）、バンコク第2日本語学校で2 か月、東大農学部聴講生？46年1月29日帰国

タイ→日本→タイ

(サナン) バンコクからシンガポールまで電車に乗って行きました。シンガポールから日本海軍の船で日本まで行きました。その時シンガポールは「昭南」という名前になっていました。日本では毎日 5 時間ぐらい日本語を勉強しました。教科書はなかったです。先生の名前は忘れてしまいました。

—中略—

(サナン) 船に乗った時、とても危なかったです。アメリカ海軍の潜水艦からの攻撃が心配だったからです。東京に行った時、少ししか日本語をしゃべれなかったです。タイ人以外の留学生はインドネシア人とマレーシア人の留学生もいました。

・ 帰国について

(サナン) 戦争が終わったら、アメリカの船で帰国しました。すぐに船に乗って帰国するのではなく、5か月間桜上水で船を待っていました。

バンコク日本語学校

(サナン) チェンマイの高等学校を卒業した後、バンコクに行って、チャンコン・パツムワンカレッジで勉強しました。そこで約半年間勉強して、その時軍に呼ばれてシープラーで大体 2 か月間日本語を勉強しました。その後タープラチャンにある学校に移って、1 年間日本語を勉強しました。勉強が終わってから、日本へ行きました。全部で 12 人のタイ人が一緒に日本へ行きました。1945 年 2 月 23 日に日本に到着しました。

バンコク日本語学校第 2 校：シーピア、バンコク日本語学校：ターチャン・ルンワルン

(北村) 鈴木先生を知っていますか。

(サナン) 鈴木先生はシープラーに日本語を教えにきましたか。

(北村) ミン・ブンヤスパーというタイ人の日本語の先生を知っていますか。彼はシープラーかタープラチャンで日本語を教えていた先生です。

(サナン) 知りません。(在日中に書いた日記を見せる。火事があって、逃げたことについての日記。)

5. まとめ

- 先行研究とサナン証言一致
 - サナンの経歴
 - タイの南方特別留学生12名
 - タイから日本へ、日本からタイへ
- インタビューからわかったこと
 - バンコクからシンガポールまで電車で行った。
 - 日泰学院でタイへの帰国を待ち、アメリカの船でタイへ帰国した。
- その他
 - バンコク日本語学校学習歴：1年2か月？

参考文献

アジア歴史資料センター (JACAR) A12090791300 領事野々村雅二取消ノ件

彙報 (1943) 「南方特別留学生に就いて」『日本語』8月号 第3巻第8号

江上芳郎 (1997) 『南方特別留学生招聘事業の研究』龍溪書房

加藤武夫 (1970) 「ビルマ留学生追想記」『せくばん ビルマ日本語学校の記録』修道社 pp.25-40

上遠野寛子 (1998) 「南方特別留学生の『姉』として」日本の英領マラヤ・シンガポール占領期史料調査フォーラム『インタビュー記録 日本の英領マラヤ・シンガポール占領 (1941~1945)』龍溪書舎,pp.191-218

上遠野寛子 (2002) 『東南アジアの弟たち』暁印書館

河路由佳 (2006) 『非漢字圏留学生のための日本語学校の誕生—戦時体制下の国際学友会における日本語教育の展

開』港の人
河路由佳 (2009) 「鈴木忍とタイ—戦時下のバンコク日本語学校での仕事を中心に—」『アジアにおける日本語教育』チュラロンコン大学文学部東洋言語学科日本語講座 pp.3-27

河路由佳 (2011) 『日本語教育と戦争』新曜社

川瀬生郎 (1978) 「鈴木忍先生と日本語教育」『日本語学校』第5号, pp.3-18, 東京外国語大学外国語学部附属日

本語学校
関野房夫 (1943) 「泰国及仏領印度支那に於ける日本語教育の現状 (一)」『日本語』第3巻8号, pp.51-59, 日本
語教育振興協会

北村武士、Wilailuck TANGSIRITHONGCHAI (2007) 「1940年のバンコク日本語学校について—資料紹介 (日
本語学校規則書)—」『国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要』第4号, pp.99-108, 国際交

流基金バンコク日本文化センター
倉沢愛子 (1997) 『南方特別留学生が見た戦時下の日本』草思社

寺川喜四男 (1945) 『東亜日本語:発音の研究』第一出版

藤原聡・篠原啓一・西出勇志 (1996) 『アジア戦時留学生—「トージョー」が招いた若者たちの半世紀』共同通信
社

星田晋五 (1941) 「日本-タイ文化研究所の設立と事業」『日本タイ協会会報』第25号, pp.71-83, 日本タイ協会

山口雅代・北村武士 (2017) 「戦前・戦中の北部タイ日本語学習者へのインタビュー資料について」『日タイ言語
文化研究』第4号、日タイ言語文化研究所、pp.159-224